

# 岩沼市文化財だより

三

文化財愛護シンボルマーク  
**第9号**

平成22年3月31日発行  
TEL 0223-22-1111  
岩沼市桜1丁目6番20号

宿泊半島名瀬湖南小屋  
校稿



後世に  
大切に守り伝えたい  
岩沼の文化財

一 青空高くのびゆく生命  
二木のむのゆかりも深く  
はつらつと  
力あふるるいそしみに  
学ぶ三年の春と秋

二 大空広くのびゆく心  
阿武隈の川地をうるおして  
学園に  
かおりゆたかな花は咲く  
山と海との幸ゆたか

三 青空高くのびゆく希望  
青羽の山脈に光は映えて  
果てしなく  
行くて明るく 曙は飛ぶ  
われら若沼 北中生

岩沼中学校校歌



岩沼北中学校校歌

校歌

一 西にはむらか木藏王山  
仰ぎ近くは阿武隈に  
餘る玉蒲美し郷  
わが中学校もとより

二 天地新たの世に至りて  
熱き血潮の脈高く  
正しく強く明朗に  
日夜つとめて怠らず

三 日本国の再建の  
責住肩に負えらる等  
希望豈がいせばに  
つとも玉蒲中学校

作詞 上井 雅翠先生  
作曲 佐藤謙次先生

### 岩沼西中学校校歌

玉浦中学校校歌

それそのの間詰には共通でいることがあります。まず七五調であり、詞が覚えやすい日本人の古くからリズム感があります。また阿武隈川や蔵王、太平洋、二木松、若松、朝日山など故郷の光景を取り入れることが欠かせないことです。

在校生にとつては心を一つにできる校歌の存在ですが、同窓生には同じ学びやで育つた縁を思い起こさせてくれるものです。故郷を離れた方にとつてはなおのこと、懐かしさをよみがえらせてくれることでしょう。卒業後、学校を母校と呼ぶ心情には校歌の存在が大きいといえます。

卒業・入学シーズン。このとき学校では必ず校歌が歌われます。地域の良さを知るには校歌に込められた情景を思い起こせば、すぐにわかります。

校歌の制定で最も古いのは、岩沼小の明治四二年。現在は一番のみが歌われていますが、実はまぼろしの二番、三番が存在しています。玉浦中の校歌は昭和二四年制定、作詞が「荒城の月」で有名な土井晩翠。戦後らしく三番目の歌詞には「日本国の再建」が盛り込まれ、制定時の様を感じます。

[1]

貞山運河

岩沼市文化財保護委員長 千葉宗久

貞山運河は宮城県の三大運河の一つである。阿武隈川河口の納屋か

第一期では、寛文十三年（一六七三）に塩釜の牛生から七北田川河口の蒲生にかけての八kmの運河が完成した。この運河を御船入堀と称した

昌黎縣志

工事には、宮城集治監の囚人約三百名が使役され、全通は明治十八年六月であった。なお、新堀着工には諸

川(堀)」であることから『内川』と記したと解釈できそうである。

『キビキ堀』と称していたと記載している文献は、伊達家十五代当主、

の伊達邦宗氏が大正十年に脱稿した『伊達家史驕叢談』である。これに

よると、堀の工事を行つたのは貞山

青山公(四代綱村)の時代になつて

の工事であり、その頃は『キビキ堀』と称し、キビキとは恐らく木引きの

意味であろうと解釈している。

「録」には、伊達家の殿様やお姫様が

出でになられた時に『木引堀』を通つ  
二二三〇口としている。これは元用

たことが記されている。これは天明六年（一七八六）の記事である。

安政二年（一八五五）に描かれた宮城県図書館所蔵の『阿武隈川絵図』では『木ヒキ堀』と記されている。



## 『奥州仙台領国絵図』の岩沼付近

三

現在の貞山運河では、寺島地区から南にかけて葦が群生し、東岸には松林が残つており、江戸から明治にかけての姿をとどめている。運河公園として、松林とともにいつまでも保護したい文化財の一つである。

引用·参考文献

伊達邦宗  
渡辺信夫  
『伊達家史驍叢談』  
『交通史上の岩沼地方

阿武隈川水運史研究  
『荒浜』  
渋谷恭三

千葉宗久『貞山運河』いわぬま駿  
史散步三九・一三三一

宮城県高等学校社会科教育研究会  
史部会 『宮城県の歴史散歩』

岩沼市  
『岩沼市史』  
亘理町  
『亘理町史』

宮城県図書館  
仙台市博物館  
『阿武隈川絵図』  
『奥州仙台領国絵

貞山運河事典編集委員会

宮城県『貞山堀運河』宮城県文化調査報告書第四三集

## バスに乗つて 史跡探訪

岩沼市文化財保護委員 阿部 昭平

の跡(大尊田碑)があります。ハナト  
ピア前下車。

昨年、エフエムいわぬまの企画による「岩沼市民バスに乗つてたずねる文化財」というタイトルで市内の文化財について放送(各十三分くらいい)しましたところ、大勢の方々から好評を戴きました。

その後バス路線と文化財の場所をもう一度知りたい、という要望がありましたので、本紙面を通してその要点を掲載します。

**大師線** 岩蔵寺薬師堂、岩蔵寺不動尊、若宮八幡神社があります。薬師堂は貞觀二年(八六〇)慈覺大師の開基と伝えられ、岩沼最古の天台宗のお堂といわれています。バス停「松本」からと大師温泉の裏山から登れます。

**西部線** 金蛇水神社、大窪高庵延命地蔵尊、滝の入り不動尊などがあります。金蛇水神社は永祚元年(九八九)京都三条の小鍛冶宗近が天皇の佩刀を鍛えたといいます。近くに爐

南長谷線 東平王塚古墳、竜谷大聖不動尊、庚申塔、玉崎問屋、稻葉の渡し、八声の碑、聖徳太子堂などがあります。問屋渡邊家の庭園は有名で、「伊達家から拝領の石灯籠があり藩主、姫、代官等の宿泊所、米沢藩、伊達藩の蔵米や荷物の中継所となつたといわれています。

**納屋線** 薬師堂、熊野神社、日月堂、湊神社、貞山堀があります。薬師堂や日月堂は玉浦八景の一つです。貞山運河は阿武隈川と北上川を結ぶもので、南から順に木曳(木挽)堀、新堀、御舟入堀、東名運河、北上運河と呼ばれています。

**二野倉線** 林觀音堂、二野倉の神明社、弘法大師堂があります。觀音堂は伝承によると坂上田村麻呂の創建で、弘法大師堂は僧空海が修行した地といわれています。

**空港線** 矢野目足輕、鹿島神社があります。集落は内堀と外堀に囲まれており、内堀の内側を館内、外堀の内側を館外と呼び、集落全体が中世の近世の館跡といわれています。

南北線 竹駒神社、二木の松をはじめとして見所がたくさんあります。

竹駒神社は承和九年(八四二)五月に陸奥守に任せられた小野篁<sup>なみの</sup>が赴任の際、山城国(京都)伊奈利山の稻荷明神の分霊を勧請したといわれています。二木の松(武隈の松)は松尾芭蕉もたずね、桜より松は二木を三月越しの句を詠んだことで著名な銘木で、現在の松は七代目といわれています。また周囲には万能の池、長者屋敷、麹屋敷等の地名がありました。東武神社の前にはかつて江戸から数えて八十八番目の「里塚」があつたといわれています。聖徳太子堂は子育て、厄除けの守護神といわれ、境内には大きな馬頭観世音の石碑があります。北丸薬師は竹駒寺境内にあります。その昔は岩沼館(岩沼要害)の北丸にあつて、「相伝う木下薬師の御分靈を移し祀る」との伝聞がのこつています。朝日山公園には白山古墳や荒井堤がありますが、ほかに遊園地には文学碑もあります。鈎取明神は古内家の足軽たちが伊達家の警護の任を果たし帰郷する際に御分霊を勧請したといわれています。

岩沼館(岩沼要害)は奥山家、古内家、田村家などを経て、明治維新までは古内家が拝領していました。築城した場所は岩沼駅周辺の丘陵で、東の長沼や南の弁天沼などに囲まれる広大な面積を占めていました。周辺では鵜ヶ崎、堂ヶ崎、鼻輪崎、観音崎、鷺崎、松崎、稻荷崎の七崎の丘陵がみられましたが、今では部分的にその面影を留めるのみとなっています。本陣と脇本陣は、中央一丁目と二丁目の境の南北にあります。本陣は江戸時代には松前、八戸南部、盛岡南部、一関田村藩藩主の宿泊や御休所となり、また幕府役人の宿泊所としても利用されました。脇本陣は問屋場を兼ね、南部藩や仙台藩の馬買役人などの宿所ともなり、廐は幕府、伊達家、古内家の格式によつて軒高に違いがあつたとされています。

さて、これまで主に路線別に文化財を列挙しましたが、必ずしも順路や説明は十分ではありません。本稿は場所の確認を中心にまとめたものですので、今後たずね歩く目安として活用していただければ幸いです。

## 岩沼の松、あれこれ

岩沼市文化財保護委員 吉岡 一男

岩沼といえば、すぐに思い出されるのに「二木の松」の道路標識があり、その松の著名なことは世間によく知られている。また、今はなき「鼻輪の松」、そして西部に広がる「千貫松」、さらには二の倉海岸の松林、貞山運河沿いの松並木など、古くから今まで松にまつわることは数多い。

さて、岩沼には数多くの松樹があり、古く藩政期に著された『封内名跡志』、『封内風土記』にも登場している。前者には双根古松、鼻輪松、千貫松が記されており、後者では武隈松、鼻輪松、千貫松としてそれぞれ記され、江戸時代中期頃には、すでに著名な存在として知られていたことが分かる。

このうち二木の松については、かつて『岩沼市文化財だより・第二号』に和歌を中心として詳細な報告が行われているので、それをご覧いただきたい。なお、地元出身の鈴木雨香はこの松を取り上げた和歌は三

五首あるとし、『岩沼案内記』にもこれを逐一紹介しているほど、天下に知られた存在であった。

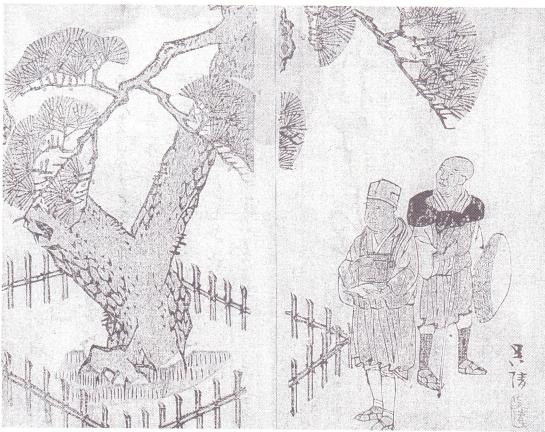
ついで鼻輪松については、『名跡志』に「…当館より五丁余、西小坂を登つて武本有…」と記され、また源重之の和歌に武隈やはなはにたてる松だにも我は独ありとかは聞くと和歌を詠んでいる。このほか古くは『奥儀抄』に「二株松、あるいは鼻輪松」という、「風土記」にも「雙松相

並枝葉繁茂」とある。なお、『歌林良材』には二木の松と鼻輪松とを混同しており、世の人はこれを信用して

おり、水夫たちがこれを望見することにより、水夫たちがこれを望見することによって価千貫と呼んだことから千貫松、千貫山の名がついたとされる。

さらにこの麓には東平王の塚があり、ここには青松十二株があつたことも古書に記されているが、鼻輪松と同様に現在はそれを確認できない。

このあと取り上げたいのが海岸地帯の松林である。ともすれば内陸部の象徴的な松樹が取り上げられるが、蒲崎から二の倉にかけての松林も見事である。これに貞山運河沿いの松並木もその美しい植生を実感させてくれる。二の倉海岸附近を歩いてみると、低地の砂浜海岸にはクロマツが見られ、天然更新の成林している



『三月越集』の芭蕉と曾良

(安政六年・幕末作)

題名をつけたとも考えられた。

ついで南長谷にある千貫松についてふれよう。『名跡志』の記載では、

山上に新山叢祠（權現社）があり、山下には深谷山真珠院という竹駒寺の末寺があった。嶺上には青松万株の松樹林が山の高低に従つて数十町、

屈曲したり、平直にして翠松が存在した。千貫という名称理由の一つに

は遠く太平洋の商船からこの松を

望んで、方角や天候を占うことであ

り、水夫たちがこれを望見すること

によって価千貫と呼んだことから千

貫松、千貫山の名がついたとされる。

さうにこの麓には東平王の塚があ

り、ここには青松十二株があつたこ

とも古書に記されているが、鼻輪松

と同様に現在はそれを確認できない。

このあと取り上げたいのが海岸地

帯の松林である。ともすれば内陸部

の象徴的な松樹が取り上げられるが、

蒲崎から二の倉にかけての松林も見

事である。これに貞山運河沿いの松

並木もその美しい植生を実感させて

くれる。二の倉海岸附近を歩いてみ

ると、低地の砂浜海岸にはクロマツ

が見られ、天然更新の成林している

のも見受けられる。クロマツは本州各地で見られ、海岸部に樹生している特徴がある。それに對してアカマツは海岸部のみならず内陸部にも樹生が見られ、史蹟、天然記念物、歌枕、保存樹林に指定され、代表的なマツといえばアカマツである。

二の倉海岸の前線はクロマツ林が優勢で、ここから二千メートルほど内陸部ではアカマツの純林が見られる。貞山運河沿いには成木が見られ、エゴノキ、アズキナシ、カスミザクラ、コナラ、ナツハゼ、ススキ、アキグミ、ヤマウルシなど落葉潤葉林も多く、散策しても飽きないほど植生が豊富なことに驚かされる。

総じて、岩沼の松については、町場、山岳部、海岸部、そして貞山運河沿いなど見るべきものが少なくない。かつては都人が詠んだとされる二木の松、鼻輪の松などの和歌を口ずさんでみたり、千貫松や二の倉海岸、貞山運河沿いの松眺め、散策することをおすすめしたい。

# 将軍の馬と仙台藩 その二

岩沼市文化財保護委員会 岩沼市文化財保護委員会

森田恵美子

## 馬買衆の構成と権限

今回は四代藩主綱村の時の馬買衆の話をしたい。

馬買衆は、一人の御馬買をトップとする二つの馬買い集団で、それぞれの御馬買は三〇～四〇人余の従者を引き連れていた。例えば天和三年（一六八三）の御馬買は加藤権左衛門と中山勘兵衛の二人であるが、権左衛門の従者は三八人。勘兵衛の従者は三五人。主従合わせて七八人の集団である。さらにこの二人には宿駅ごとに一一疋ずつの伝馬を利用できる朱印の伝馬手形が与えられており、一行は百人近い人数（年によって百人を越えたが）になった。その混雑を避けるためか、馬買衆は二つに分かれて行動することが多かった。

買い馬の決定権もトップの二人がそれぞれに持っていたらしい。たとえば延宝六年（一六七八）の盛岡藩の記事に、「門奈助左衛門様御買

馬一一疋、秋山六左衛門様御買馬一一疋」とあり、他にもそういう事実が確かめられる。相談・助言をし合つたとしても、とにかくそれぞれが馬を買つたようである。

## 馬の買い方

この時期、馬買衆が馬を買うのは横手と盛岡と仙台の三ヶ所に限られていた。まず羽州街道をたどつて横手まで行き、ここで七・八疋程の馬を買い、それから国見峠を越えて盛岡に入った。盛岡では二〇～五〇疋、時には八〇疋を超える馬を買つた。それから奥州街道を仙台に向かつた。

三ヶ所の滞在日数は売り馬が多ければ長くなる。延宝八年（一六八〇）を例にとれば横手は売り馬一三五疋、滯在は六日。盛岡は売り馬四四二疋、滯在二二日。仙台は売り馬一八四疋で滞在一五日である。

馬買衆は到着の翌日から馬選びを始めた。仙台では国分町がその場所であった。馬の選別は「見分」といい、最初の見分ですべての売り馬を見た。これを一番見という。相当数の馬がこれでふり落とされた。そし

て二回目の選別、すなわち二番見をしてさらにふるい落とし、三番見をする。こうして残った馬が「御買馬」の候補ということになる。この時点ではまだ候補は多いが四番見はなく、最終的には馬の性格や乗り心地、使途などを考慮して選んだらしい。それでは馬買衆は仙台でどれくらいの馬を買つたのだろうか。分かるのはたつた一年分で、『治家記録』の元禄元年（一六八八）の記事に、「於仙台、馬買衆御馬六疋収公セラル」とあるだけである。

では値段はどうなのだろうか。横手では五疋買上げがあつた天和二年（一六八二）の一疋の最高価格は十七両、最低価格は十三両であった。盛岡藩はわかりにくい。馬買衆が幕府の馬だけでなく、大名や旗本たちから頼まれた馬や自分用の馬、さらには小荷駄馬まで買つているからである。わかる限りでは一八両が最高値と思われるが、一〇両に満たない馬が多く、たつた一両で買われた小荷駄馬もいた。仙台も記録が少ない。ただ元禄四年（一六九一）諫

て二回目の選別、すなわち二番見をしてさらにふるい落とし、三番見をする。こうして残った馬が「御買馬」の候補ということになる。この時点ではまだ候補は多いが四番見はない、最終的には馬の性格や乗り心地、使途などを考慮して選んだらしい。それでは馬買衆は仙台でどれくらいの馬を買つたのだろうか。分かるのはたつた一年分で、『治家記録』の元禄元年（一六八八）の記事に、「於仙台、馬買衆御馬六疋収公セラル」とあるだけである。

では値段はどうなのだろうか。横手では五疋買上げがあつた天和二年（一六八二）の一疋の最高価格は十七両、最低価格は十三両であった。盛岡藩はわかりにくい。馬買衆が幕府の馬だけでなく、大名や旗本たちから頼まれた馬や自分用の馬、さらには小荷駄馬まで買つているからである。わかる限りでは一八両が最高値と思われるが、一〇両に満たない馬が多く、たつた一両で買われた小荷駄馬もいた。仙台も記録が少ない。ただ元禄四年（一六九一）諫

て二回目の選別、すなわち二番見をしてさらにふるい落とし、三番見をする。こうして残った馬が「御買馬」の候補ということになる。この時点ではまだ候補は多いが四番見はない、最終的には馬の性格や乗り心地、使途などを考慮して選んだらしい。それでは馬買衆は仙台でどれくらいの馬を買つたのだろうか。分かるのはたつた一年分で、『治家記録』の元禄元年（一六八八）の記事に、「於仙台、馬買衆御馬六疋収公セラル」とあるだけである。

## 脇馬買

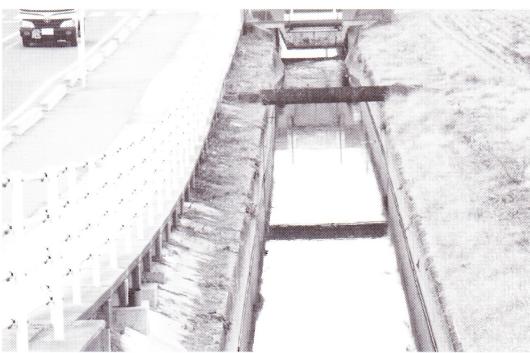
「脇馬買」とは、馬買衆の残り馬を買う人々である。盛岡藩の話であるが、この脇馬買に多数の大名家の馬買人が混ざつていて、一度に二〇・三〇疋と大量の馬を買つている。慶安四年（一六五一）には仙台藩主忠宗の馬買人布坂五右衛門も三四疋買つてている。仙台藩が種馬にするために何度も盛岡藩から馬を買つたというが、これもその話しに相当するものだろう。

仙台藩にも脇馬買が来た。古内主膳重安の書状の中に、加賀殿の馬買が三〇両で馬を買つた、とある。そうするとやはり仙台馬は群を抜いて高値、だったようである。

「脇馬買」とは、馬買衆の残り馬を買う人々である。盛岡藩の話であるが、この脇馬買に多数の大名家の馬買人が混ざつていて、一度に二〇・三〇疋と大量の馬を買つている。慶安四年（一六五一）には仙台藩主忠宗の馬買人布坂五右衛門も三四疋買つてている。仙台藩が種馬にするために何度も盛岡藩から馬を買つたといふが、これもその話しに相当するものだろう。

## 雷土用水路について

岩沼市文化財保護委員 作間 克彦



平等団地南側の雷土用水路の風景

**雷土用水路**は岩沼の主に西部を流れる灌漑用水である。

この用水路の取水口は隣町の柴田町楓木にある。場所は白石川の稻荷山堰で、白幡橋より約二百メートル上流にある。この堰堤で取水後ははじめ稻荷山用水路と呼ばれ、しばらく楓木の町中を流れる。現在は水路のほとんどがコンクリートの蓋で覆われ、町はずれの四日市場で再び姿を見せる。このあと楓木

堰堤で、道路の左右を交互に潜りながら流れる。水路はこの後、平等団地南側の急峻な坂道のところでトンネル(千貫隧道)に入り、相当長い区間地下を流れる。このトンネルについては、古い石碑が残っているので、あとでふれたい。

雷土用水路は、このあと松ヶ丘第一公園の西側下付近で再び姿を見せ、竹の里や三色吉の団地に沿ってしばらく流れる。そして荒井分水工で北と東に分かれる。この後水路は朝日地区と長岡地区の水田地帯を流れた後、長岡樋門で長岡承水路と名前が変わり、小川方面へ流れ、やがて志賀沢川へ注ぐ。

ついで、今回取り上げた用水路に關係する石碑について取水口付近にある大小二基の記念碑と雷土堰修理紀功碑についてふれたいが、前の二基の記念碑については紙幅の

の水田地帯を流れた稻荷山用水は分水工(三十貫分水工)で一部は五間堀川に、もうひとつは川の上に設けられた水路を通つて先にあげた雷土用水路と呼ばれるようになる。用

水路は間もなく県道仙台岩沼線に沿つて、道路の左右を交互に潜りながら流れる。水路はこの後、平等団地南側の急峻な坂道のところでト

ンネル(千貫隧道)に入り、相当長い区間地下を流れる。このトンネルについては、古い石碑が残っているので、あとでふれたい。

次に、県道仙台岩沼線の道端(平等団地の東下)にある昭和二年十月に建立された「雷土堰修理紀功碑」についてふれたい。平成二年五月から六月にかけて、基壇の部分だけ補強工事を施したので、以前のままの姿ではない。碑文の内容は石碑から読むのが困難なので『岩沼金石史』(昭和四九年刊行)に拠つた。これによると、稻荷山堰が現在の位置に移動したころより少し早く明治三九年に実

施調査が行われたが、色々な障害のため起工できなかつたことが記されている。実際に動き始めたのは大正三年七月からで、その頃の千貫村長が関係町村当局や有志に諮り、雷土用水路の拡張と様々な方策を協議した。その結果翌四年に岩沼町長が県

関係で簡単にふれたい。いざれも稻荷山堰に関するものである。この記念碑のうち、大きい方は昭和二六年八月稻荷普通水利組合によつて建立された「稻荷山堰復旧記念碑」、もうひとつ小さい方は昭和四二年八月に名取郡稻荷山堰用水土地改良区により建てられた「稻荷山堰災害復旧碑」である。

次に、当局と何度も交渉を重ね、組合設立の調査をして、ようやく八月から測量に着手したそうである。そして先にあげた組合設立の許可を受け、大正五年の四月二十日、雷土用水路拡張幹線掘削工事に着手するに至つた。大変な難工事で延長百七十貫(約三百メートル)の潜り穴(くぐりあな)を掘るのに二百有余日もかかつて竣工したということである。この潜り穴については後日談があつて、最初に掘つたトンネルは大半が人力による掘削のために途中で曲がつてしまつたそうである。現在のトンネルはそれから六十年後の戦後に掘削機械を使つて造成したものである。先に千貫隧道(昭和四九年三月竣工)と呼んだトンネルがそうである。改修紀功碑(略称)が水利組合によつて建てられたのが、完成からしばらく後になつた経緯についてはよく分からぬ。このように水路に關係する記念碑を三基取り上げたのは、現在の用水路が整備されるまでに多くの人々の大変なご苦労があつたことを知つていただきたい

いためである。

## 長谷釜の神明社 「玉浦白菜出荷図」

岩沼市教育委員会生涯学習課

### 長谷釜の神明社

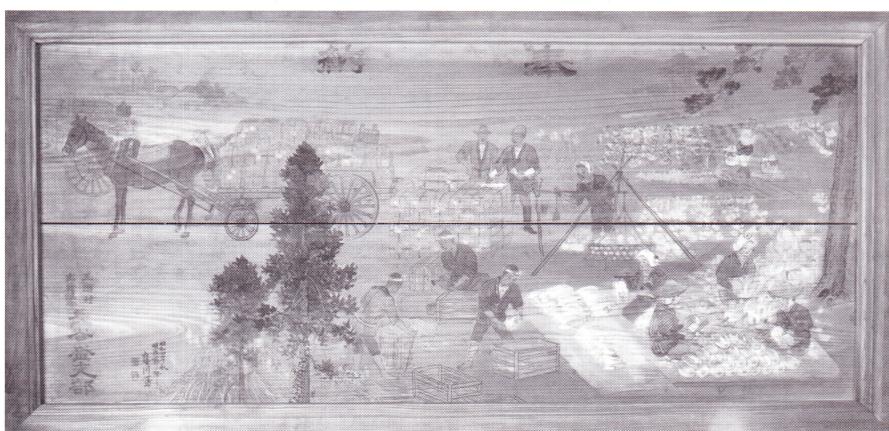
市内東部の早股字前川にある長谷釜の神明社は、江戸時代に建てられた小さな神社です。境内には銀杏の老木がそびえ立ち、幕末頃に建てられた石碑が時代をしのばせます。

今回紹介する絵馬は、そんな素朴な雰囲気を漂わせる神社の社殿に奉納されています。

その名も「玉浦白菜出荷図」。白菜の出荷風景を一枚の額に描いた、全国的に珍しい絵馬です。

### 玉浦白菜出荷図

絵馬には、十二名の人物がそれぞれ役割を分担し、いきいきと白菜の出荷作業を行う姿が描かれています。絵の右上には畑が広がり、そこからカゴ一杯に積んだ白菜を木陰まで運んでいきます。ゴザが敷かれた木陰では、女性たちが白菜の外葉をむき、包丁で根を切り落とし、重さを計っています。計量が終わると、



木箱の中に白菜を詰め、釘でしつかりと蓋を打ち付け、それを包んで紐で縛り、出荷の準備は完了です。準備が整った木箱の数を、男性二名が

帳簿付けし、確認の済んだ木箱は馬車の荷台へ積み込まれます。このようすに、白菜出荷時の一連の作業が絵馬には見事に書き込まれているのです。

木箱の中には、白菜を詰め、釘でしつかりと蓋を打ち付け、それを包んで紐で縛り、出荷の準備は完了です。準備が整った木箱の数を、男性二名が

### 白菜生産の隆盛

この特殊な内容ともいえる「玉浦白菜出荷図」が長谷釜の神明社に奉納された理由。それは、玉浦地域が大正から昭和の初め頃まで、宮城県内でも指折りの白菜生産地だったからに他なりません。

玉浦地域では、肥沃な耕土を活かした産業が盛んで、米・藍・紅花など多種多様な農作物が藩政時代から生産されていました。この土壤に注目し、新たに玉浦の特産物をつくりうと、近隣の人々に白菜の栽培を懇願したのが、大正期の県議会議員・安久津庄二郎という人物でした。安久津氏からの懇請に応え、玉浦村の人々が白菜の栽培を始めるようになると、これが東京の市場で好評を博し、「仙台白菜」の名前で全国に送り出されるようになります。

その後、玉浦地域での白菜生産は、出荷組合が結成されるほどの活況を呈し、昭和の初め頃には中央市場への出荷が最盛期を迎えます。「玉浦白菜出荷図」は、このような盛り上がりのなか、長谷釜の白菜生産者たちによって、昭和四年に神明社へ

奉納されたと考えられます。自然の恵みへの感謝と、豊作を神に祈った「生業成就の絵馬」だったのです。

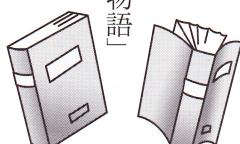
### 絵馬が語るもの

昭和の初めに全盛を誇った玉浦の白菜も、その後は「栽培がしにくい」「柔らかいので傷が付きやすい」などの理由から他の競争相手に取って代わられ、さらに戦争の作付け統制の中で衰退。次第にその面影を消していきました。しかし、生産者たちが白菜づくりに懸けた「思い」は、絵馬という「かたち」になつて現代に伝えられています。

当時の岩沼の産業を視覚的に知る上でも貴重な「玉浦白菜出荷図」は、奉納されてから半世紀以上経つた今でも、長谷釜の人々によつて大切に守られています。後世に引き継ぎたい岩沼の文化財です。

### 引用参考文献

- 岩沼市・「岩沼市史」
- 佐々木喜一郎・「岩沼物語」



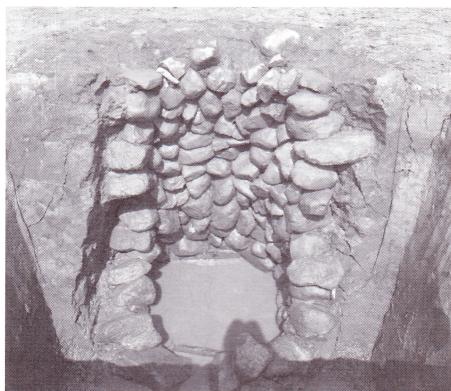
## 市内遺跡の発掘について

岩沼市では、平成二二年度中に新図書館建設に伴う丸山遺跡、玉浦中部地区経営体育成基盤整備事業に伴う西須賀原遺跡をはじめとした6地点で本発掘調査等を実施しました。

丸山遺跡では、市内で初めての確認となる石や桶を用いた江戸時代後期頃の井戸跡が発見されました。

また西須賀原遺跡では、畑のウネ跡や柱穴跡、戦国時代から江戸時代初めに愛知県周辺で作られた陶器が発見されています。

市内で出土した資料などについては、今後企画展示などの中で広く活用してまいります。



丸山遺跡の石組井戸跡

## 文化財めぐり報告

平成二二年度

十一月十三日(木)に三十四名の市民の方々と、お隣の名取市の文化財を見学しました。

当日はあいにくの空模様でしたがが、市文化財保護委員の阿部昭平先生をガイド役に熊野那智神社などを見学しました。特に洞口家住宅では所有者の方から詳しい説明をいただき、大変面白かったという感想がたくさん寄せられました。また見学先だけではなく、車中での阿部先生の説明にも、参加された皆さんは熱心に耳を傾けていました。

今年も文化財保護普及の一環として、文化財めぐりを開催する予定です。皆様の参加をお待ちしています。

市内ではかつて下駄づくりや鍛冶など様々な仕事が行われていました。今回の企画展では、その際に用いられた後、市に寄贈された道具類を中心に展示・解説を行いました。また市指定文化財である『藍づくり・米づくりの額』に描かれた作業工程を細かく解説し、パネルの前では多くの方が足をとめて見入っていました。

なお、文化財企画展は、平成二二年度は新展示室への移転のためにお休みますが、新しい展示室では様々な企画展を行つてまいりますので、皆様のご来場をお待ちしております。

- ①埋蔵文化財包蔵地等で工事をする場合は「注意ください！」
- 市内には現在五六か所の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)が登録されています。市内で工事を行う場合は、対象地が遺跡範囲に含まれているのか、事前に生涯学習課又は文化財展示室で照会をお願いします。

②岩沼の古い写真をお貸しください  
かつての岩沼の町並みや暮らしうりがわかる写真はありませんか？

たとえば漁業の様子や農作業の様子、市内の風景を撮ったものです。貴重な文化財資料・市史編纂資料として活用しますので、お持ちの方のご連絡をお待ちしています。

③文化財だより九号に関するご意見・ご感想をお待ちしております

・岩沼市教育委員会生涯学習課

・市史編纂室

内線五七三

・文化財展示室(ハナトピア岩沼内)

一三一四七八七

・メール

kyouiku@city.iwanumamiyagi.jp

## 生涯学習課からのお願い

